

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月 29日

報告者	学科名	子ども	職名	講師	氏名	樟本千里
研究課題	物語の中の道徳的概念は子どもの誠実さを促進するか					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	樟本千里	子ども・講師	教育心理	実施・計画	
研究組織	分担者					
研究実績の概要	<p>絵本の読み聞かせに代表される「物語を語って伝えること」は、子どもが社会生活を営む上で、必要となる貴重な教訓を身に着けることに理想的な教材の一つである。幼稚園や保育所では、ほぼ毎日様々な目的をもって絵本の読み聞かせに代表されるストーリーテリングが行われている。子どもは幼い頃から、社会化の手段や文化的価値を伝える教育教材として、たくさんの物語や寓話に触れている (Henderson & May, 2005; Kim, Green, & Klein, 2006)。しかし、これらの物語が子どもの実際の行動にどのような影響を与えるかは、まだほとんど研究されていない。</p> <p>2022年度の岡山県立大学独創的研究助成費を受けて行った、『道徳的な物語は子どもの誠実さを促進するか』では、4歳児と5歳児を比較すると、5歳児の方が正直さを示すことが明らかになったものの、道徳的な話（正直さが道徳的価値）は、話を聞いた直後の子どもの行動には影響しないことが示された。すなわち、お話を1回聞いただけでは子どもの誠実さは促進されないことが示された。この結果は、5歳児は4歳児に比べて、社会的望ましさを知覚し、実験者との約束を重視した結果というようにも解釈ができる。そこで、「読み聞かせだけ」ではなく、「道徳的価値への注目」をさせる教示を行うことで、幼児期の子どもたちが正直であることが促進されるのかについて検討しようとした。</p> <p>当初の計画では、幼児90名を対象に、①嘘をつくことが不利益な結果につながる話、②嘘をつくことが不利益な結果につながらない話、③嘘に関係がない話の3条件（グリム童話を使用）を用い、誘惑抵抗課題を行う予定であった。しかし、昨年度のデータ分析を進める中で、条件の違いが現れなかったのは、使用した物語課題による可能性が見出された。そこで、本実験に入る前に、3条件の違いを幼児が認識するかどうかを検討するためのプレ実験を10月に行った。</p> <p>目的 物語の中の主人公が置かれた状況と、主人公がついた嘘を関連づけているか 方法 被験者 <u>4歳児8人、5歳児8人、合計16人</u>。手続き3つの物語課題のいずれかを読み聞かせた後、2つの質問を行った。①どんなお話だったか（物語理解）、条件1および条件2については、②主人公にとって悪い結果（良い結果）になったのはなぜだと思うか（因果律）。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>結果 「物語理解について」登場人物については、16人の幼児すべてが答えることができた。話の流れについても、調査者が適宜質問を行うことで、16人の幼児が理解していることが確認できた。「因果律について」は、①嘘をつくことが不利益な結果につながる話の場合、不利益な結果と主人公の嘘を関連づけて答えた幼児は14人(87.5%)、②嘘をつくことが不利益な結果につながらない話の場合、利益のある結果と主人公の嘘を関連づけて答えた幼児は6人(37.5%)であった。</p> <p>幼児は、嘘をつくことと悪い結果がもたらされることは関係づけているが、嘘をついたことと(悪賢い)利益のある結果がもたらされることを関係づけて考えることは難しいというところがうかがえた。</p> <p>本実験を3月に行う予定をしていたが、調査園との調整がうまく整わず年度内に終了することができなかった。</p>
<p>成果資料目録</p>	